

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	質の高い介護のためにしっかりと理念が作られており、共有に努めている。1月の研修会で年度始めにみんなで読み合わせを行い確認をした。	事業所独自の理念を掲げており、理念の実践ができるよう玄関・事務室にも理念を掲示し、ユニット会議でも理念を確認する機会を設けています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年は町内の隣組の組長も引き受けた。会合や行事にも参加し忙しかったが、地域の方と親しくコミュニケーションがとれて、施設を理解してもらい良かった。夏祭りには職員は手伝いに利用者はお呼ばれで、祭りの雰囲気浸れたと思います。	地域の夏祭りに参加したり、事業所が主催で認知症に関する研修会を開催し地域の方にも参加していただきました。ボランティアの方にも定期的に来て頂くなど、積極的に地域とのふれあいが心がけられています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会と共催で「認知症を正しく理解しましょう」をテーマに講演会を行った。地域の方43名と職員10名の参加があった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、状況報告を行っている。また参加者の方々の意見を聞き、積極的に取り入れる努力をしている。	運営推進会議は町内会長やご家族代表、民生委員や地域包括支援センター職員から出席してもらっています。参加者へ事業所の状況報告を行い、会議で頂いた意見はしっかり受け止めて向上するように努力しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議のメンバーに入って頂き意見を聞いている。わからない事については、電話等で連絡し、指導を受けている。	地域包括支援センター職員には運営推進会議にも参加していただいております。アドバイス頂いているほか、困難事例の相談や不明な点について連絡を取り連携が図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしなければならない場合、ユニット会議で皆で話し合いを行い、ご家族に了解を得、月1回は経過を検討をし、できるだけ時間を少なくするなど努力する。内容は記録に残す。	事業所として身体拘束は行わない方針のもと、ユニット会議でも身体拘束に関する研修を行い、職員の理解も深めるようにしています。	身体拘束を行う際には、ご家族の同意のみならず定期的に経過説明も行うようにされることを期待します。
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待マニュアルを作成し、見直しを行っている。	事業所でも外部講師を呼び、虐待防止に関する研修を行い、虐待の防止を徹底しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	近々講師に依る研修を実施予定でいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項・利用契約・運営規定の説明を行っている。又半年に1回の家族カンファレンス時に改めて、ご家族に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議(ご家族代表)や、ご家族カンファレンスに、意見を出していただき運営に活かしている。	運営推進会議の場だけでなく、面会時や電話連絡の際などに気付いたことや要望は無いかな確認しています。また、ご家族には事業所の敬老会にも参加していただいております。ご家族との交流を図り意見を確認し、反映できるように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ユニット会議を行っている。職員からの意見や要望を話してもらい、本社から部長も参加してもらえるので、直に内容の検討ができる。	毎月のユニット会議で意見や要望を確認しているほか、管理者は日常の業務の中でも職員からの意見を確認しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則等労働条件に関しては、見直しが行われた。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の様々な研修を受ける機会はあるので、積極的に取り入れる努力をする。上越市内で行われる研修には、参加している。2グループの総会兼研修会にも出席している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	電話等の意見交換はあるが、職員交流の実践は行われていない。外部研修に出たときは、昼休み等利用して友達を作ってくること、話している。実習受入れの際、向こうの管理者から職員交流の話があったので、職員も希望しているので是非実現したい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所事前に生活歴や生活の状況を把握するため、ユニットの職員には、細かくどんな小さなことでも話しておく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族の不安や要望をよく聞き、見学にきてもらったりして、不安を取り除くことができるように、務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には、必要とするサービス、要望は見極め対応する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族と同じ存在であるという意識を持ち、利用者と一緒に笑い、又悲しみも共にしながら、信頼関係を作っていく。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員は、情報を共有している。受診時の支援も家族の協力を頂く等一緒に支えている。	電話でのやりとりや受診の際にご家族とコミュニケーションを行っており、受診・外出・外食の支援もご家族の協力をいただくなど、一緒に支えあうことができるよう関係づくりに努めています。	現在行っているご家族へ向けのご利用者ごとのお手紙の送付や、広報も定期的に送付するようにし、よりご家族との情報の共有化がされることを期待します。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・親せき・友人の方が面会に来られた時は、自室でゆっくり過ごしていただく様子を配ります。じょんのび新聞を見て頂き日常生活ぶり、施設内の生活状況を理解していただく。	ご家族に自宅への外出支援の協力を行っていただいておりますが、ご利用者に合わせた外出支援などは行えていません。	ご利用者の馴染みの関係を継続できるよう、個別の外出支援を取り入れるよう検討されることを期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	耳が遠かったり、意思疎通ができない方達には、職員が話の橋渡しをしている。リビングの席も楽しく過ごせる様に席替え等行って様子を見ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退所された方には、病院等行った際、顔を出してくるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別処遇を基本にしているので、ご家族の思いも入れ対応している。困難な方については、他利用者に迷惑にならない限り、自由生活してもらってる。状況はしっかり把握している。	日々のケアの中での表情や会話の中から思いの把握が行われています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活の延長を基本にしているの で、ご家族からの情報を聞き、無理の無いように支援している。	ご本人やご家族からの聞き取りにてこれまでの暮らしの把握が行われ、ご本人の生活歴や嗜好を確認しています。また、日々の生活で得られた情報についても定期的に情報の更新も行っています。	ご利用者の情報をより把握できるように、生活歴に関するシートの作成も検討されることを期待します。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	3ヶ月に1回担当職員が状況説明をし、カンファレンスを行っている。皆で意見を出し合って検討されている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当がアセスメントをし、計画作成者とプランを作成、家族カンファレンスを行い実行に移している。随時関わる職員の意見も聞き出し必要があればサービス変更を行い、ご家族に同意をいただいている。	介護計画に関しては6ヶ月毎の短期目標を設定し、定期的に評価も行き、ご利用者・ご家族からの要望も確認し、見直しもされています。	介護計画の目標とモニタリングの内容が連動していないところも見られましたので、再度確認し、見直されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録・業務日誌・申し送りノートに日々の様子を記録し、情報の共有を行っている。又、カンファレンスの際に実践、見直しを話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助など、本人や要望に対して、きめ細やかに柔軟な対応が行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流を大切に思っているので、行事に参加して、楽しみの場を広げている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望している医療機関で受診を行っている。また協力医が主治医の場合、月2回往診を行い、個々の状態や要望に応じた対応をしている。	かかりつけ医はご本人の希望するかかりつけ医となっており、ホームに往診も来て頂きます。受診時は原則ご家族が付き添いますが、必要に応じ職員が同行し、医師との状況の確認が行われているほか、ご利用者の情報をまとめた資料を医師に渡すなどの情報提供も行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	嘱託医のこやなぎ第2医院の先生は、休みの時でも、電話をかけると、心配な時は往診していただき、院内処方でも薬も出してください、その後のことをファックスで報告すると必ずファックスで返事をくださるので安心して介護にあたる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院すると週1回は、お見舞いに行き、退院できるかどうか等、看護師・ケースワーカーと情報のやり取りがある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の重要事項説明書に管理者が、文書を視差し、音読の説明を行っている。6ヶ月毎に行われる家族カンファレンス時にも「看取りはできません」と話し了解を得ている。	入所の際にホームのできることを伝え、看取りは行わないことを説明しご家族にご理解いただいています。	事業所としての重度化した際の対応の方針をまとめ、ご家族に説明しやすいように検討される事を期待します。
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを導入し、消防署員より使用方法の訓練を行い、今後定期的に施設内での習熟度を高めていく。	年2回、消防署員に来て頂き事業所にて救命講習を行い、急変時に適切な初期対応ができるようにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回は、避難訓練をいる。地域の消防団にきていただいて、施設の中をみてもらった。居室の洗面台の鏡にネームプレートに、運び出す方法が書いてあります。参考にして欲しいと伝えてある。	年2回、日中・夜間の火災を想定した避難訓練を行っており、前回の課題であった非常食の確保もされていました。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの性格や状況を考慮し、声掛けや対応には注意している。	言葉かけ等が馴れ合いにならないよう、ご本人の人格を重視したケアが行えるよう徹底されています。また、広報への写真の掲載についてもご利用者に同意を得ています。	広報の写真の掲載については口頭のみならず、書面で同意を得られるように検討されることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	今までの習慣については、ど自分のやりたいようにして頂いている。自己決定できない人には、職員自身が自分だったらどうして欲しいか考えてもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	習慣化された日常生活に余裕を持ち、利用者様のやりたいこと事を優先するように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の範囲内で、その日の服などを選んでいただいている。散髪もどのようにするか意見を聞いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備や後片付けなど、本人の出来る範囲内で行っている。日曜日は利用者様と一緒におやつ作りを行い、敷地内にある畑で収穫し喜びを分かち合っている。	ご利用者の能力に応じて調理の下準備や、後片付けも行ってもらっています。また、事業所の畑でもなすやじゃがいもなどの野菜をつくっており、ご利用者の楽しみとなっています。また、近隣の食事処への外食支援も行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	クッキングデポを使用し、栄養のバランスを考慮している。1日の摂取量を記録し、水分を多めに摂ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。夕食後は義歯の洗浄を行っている。状況に応じた介助・見守りを行っている。今年から食前にもうがいをするようにした。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意が無くともデータを見ながら、オムツ内での排泄を極力少なくする様に努めている。	ご利用者全員に排泄チェックを行ない、一人ひとりに合わせた適切な誘導、支援をしています。職員のさり気ない見守りや声かけで気持ちよくできています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操・掃除・レク等体を動かす機会を設け、なるべく自然排便を促す様努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を行っているが、本人の体調や希望により随時行っている。楽しんで頂ける様に、季節の湯なども行っている。	ご利用者の希望に添った時間帯に合わせて入浴支援していますが、調査時点で入浴チェックに記録漏れがあるご利用者もいました。	入浴チェックの検討を行い、適切に記録されるよう徹底されることを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々にあった離床時間にしている。睡眠時間も他の利用者に迷惑をかけなければ自由です。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の説明書を保管しており、内容・量など随時確認できるようにしている。薬についての研修会をしていただくように薬剤師さんをお願いをしてある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コミュニケーションを取り会話の中で得意だった事、趣味などを聞き、出来ることはご自分の仕事として、又生き甲斐としてやっていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブは、行事として計画的に実施している。半年は、寒い時期で外へ出ることができないので、少しでもよいから、散歩にすることに努めている。例えば郵便局へ用があれば1人でも誘って一緒に行くとか、回覧板を持って行くなど機会を作っている。	天候に合わせてご利用者と一緒に散歩に出かけたり、季節に合わせたお花見や紫陽花見学などのイベントとしての外出も実施しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族から、おこずかいとしてお預かりしている。必要時に出金し、帳簿管理を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要望に応じて、自由に電話をお使いできる状況に努めている。又手紙の支援も行っている。馴染みの方からの電話は必ずとりついでいる。これから2ヶ月に1回職員から手紙を書いているので、ご本人からも一筆書いていただこうと思っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	派手すぎる色、飾りを装飾しないよう日常生活に近い居住を目指し(居室内)ている。	飾られている写真やご利用者の作品も季節に合わせてあります。共有スペースにはソファも置かれており、ご利用者同士がゆっくりとテレビを見れる環境になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小上がり・ソファ等利用し外を眺めたり仲間同士で楽しく会話ができる様に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や仏壇など一人ひとりの個性を生かし、ご家族の意思も取り入れた部屋になっている。	居室には、ベッドやテレビ、コタツなど、自宅から持ち込んでもらっています。また、ホームでの写真やご家族の写真、カレンダーを飾るなどして、その人らしい部屋作りの工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの張り紙などの工夫や鍵の閉め忘れ等の無いよう気を配っている。		